

ミステリ読書案内

2024. 6. 27 発行元

第585号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

津村秀介『ベスト表』(再掲)

1980年代～90年代にかけて『時刻表トリック』の名手として活躍した津村秀介の『ベスト表』を再度取り上げる。今となっては一部のマニアックなファンだけが注目している作家なのかもしれないけれど…。

「時刻表トリック」のスペシャリスト

スタート時には「本格もの」の書き手として期待が大きかった。ノベルス全盛の時代に、トラベルミステリ、時刻表アリバイトリックを題材に活躍した。しかし、「時刻表」に固執するあまりに作風を拡げることができず、ベストセラーになるほどには伸びなかった。

以前の『代表作』の号では『時間の風蝕』『宍道湖殺人事件』『黒い流

域』の三作を取り上げた。今回は後期作品の中から『葡萄・夜行列車が運ぶ殺意』と『山峡の死角』を取り上げることにする。

私の住んでいる市の図書館の開架書棚には津村秀介の本はなく、かろうじて「郷土関連コーナー」に数冊並んでいる程度。今になれば限られた人以外には興味を持たない作家になりつつあるように感じられる。ブルートレインなども「過去」になっていく時代なので…。

《津村秀介作品のベスト表》

1. 時間の風蝕
2. 西の旅・長崎の殺人
3. 海峡の暗証
4. 定山溪支笏湖殺人事件
5. 黒い流域
6. 琵琶湖殺人事件
7. 保津峡殺人事件
8. 人を乗せない急行列車
9. 葡萄 夜行列車が運ぶ殺意
10. 目撃 早朝新幹線が運ぶ殺意
11. 山峡の死角
12. 最上峡殺人事件
13. 古都の喪章
14. 18時56分の死角
15. 宍道湖殺人事件
16. 加賀兼六園の死線
17. 仙台の影絵
18. 山陰の隘路
19. 逆流の殺意
20. 松山着 18時15分の死者
21. 新横浜発 12時9分の死者
22. 毒殺連鎖
23. 上高地・芦ノ湖殺人事件
24. 白樺湖殺人事件
25. 異域の死者
26. 諏訪湖殺人事件
27. 偽装運河殺人事件
28. 飛驒の陥穽
29. 京都銀閣寺の死線
30. 小樽発 15時23分の死者
31. 巴里の殺意
32. 水戸の偽証
33. 浜名湖殺人事件
34. 虚空の時差
35. 寝台特急銀河の殺意
36. 大阪経由 17時10分の死者
37. 東北線殺人事件
38. 紅葉坂殺人事件
39. 雨の旅角館の殺人
40. 横須賀線殺人事件
41. 天竜峡殺人事件
42. 長崎異人館の死線
43. 瀬戸内を渡る使者
44. 札幌月寒西の死線
45. 霧の旅唐津の殺人
46. 京都着 19時12分の死者

「葡萄 夜行列車が運ぶ殺意」

1995年に徳間書店

から出た本。その後ノベルス、文庫になったが、現在は品薄状態のようで、古書市場では比較的高値が付いているようだ。

「序章・札幌駅5番ホーム」。旭川での法事に参加した尾高直昭が、札幌駅で北斗星6号に乗り換えようとした時、駅の階段で上から転落してきた老人と衝突した。尾高に怪我はなし。老人は搬送されたが軽症のようだった。そして階段に残されていたひと房のブドウ。駅員が尾高に確認したが自分のものではないという…。北斗星は19時24分定刻に札幌を出発した。尾高が乗っているのはB寝台の個室。次に姿が確認されたのは翌朝8時過ぎの郡山駅直前。その頃、山梨のブドウ園でペンション支配人の刺殺死体が発見され、京都の花園駅近くのアパートでは警備会社の社員が同じくナイフで刺されて死亡しているのが見つかった。新聞記者の谷田実憲は浦上伸介に相談を持ちかけ…。

「山峡の死角」

1997年に祥伝社から出た本。副題は『冬

の旅・飛驒路の殺人』。でも、目次の次を開けると長崎発東京行き寝台特急さくらの運行地図が描かれている。またまた列車を使った仕掛け。

二月に下呂温泉のホテル飛驒路に宿泊した女性三人組。三人で散歩していると、小原麻未に見知らぬ男が声をかけた。「……センターのスズキ・ミツさんですね」麻未「あたしじゃありません。人違いです」でも、その男は立ち去らず「スズキさん。よもや、私をお忘れではないでしょう」と食い下がる。そして「コッパのオオクボ」と名乗った。三人は男を振り切ってホテルに戻ったが、その後も面会を申し込んでくる。麻未が対応に出ていったが、その晩は帰ってこなかった。次の日になって離れた場所で絞殺されているのが見つかった。そのホテルに泊まっていたのが谷田実憲夫妻。調査に乗り出すのだが、犯人がみつからない。三月になって同じホテルで男性が殺された。二件の事件の関係は…。